

子どもまつり

代表者 森末 安寿紗 (教育学部学校教育教員養成課程2年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業では、香川大学祭で子どもまつりを行うことで、地域の子どもたちを楽しんでもらう場を提供するという目的で企画、運営をしました。教育体育館に手作りのテーマパークを作り、無料で開放しました。体育館の内外には5つのブースを設け、約1ヵ月、構成員全員でアイデアを出し合って準備しました。今年度は「四季」というテーマで、それぞれのブースが個性的な四季を表現しました。滑り台ブースでは滑った先を海のようにして、海へダイブしているような演出をしました。ゲームブースでは、福笑いや肝試しなど、様々なアトラクションで春夏秋冬を表現しました。迷路ブースでは、迷路を進むにつれ、四季の流れが味わえるように工夫しました。クラフトブースでは、木の枝や紅葉などを使ってクラフト工作をしたり、周りの装飾にも力を入れ、四季を表現しました。そして、主に幼児を対象とした幼児ブースでは、プラネタリウムやもみじのプールを作り、幼児が安全に楽しく遊べる場を作りました。

これらのほとんどは段ボールによって作られており、すべてのブースにおいて安全面には十分に配慮しました。

2. 実施期間 (実施日)

平成21年10月3日から構成員全員での準備開始

(10月29日～10月31日の3日間で体育館内外の準備)

11月1日 子どもまつり開催

3. 成果の内容及びその分析・評価等

この子どもまつりには、子ども340名、大人301名、計641名と多くの来場がありました。今年はインフルエンザの影響や当日の雨などで昨年度よりは人数が減ってしまったものの、600名を超える人が来場してくれました。また、今年も幼児のためのブースを設け、昨年よりも幼稚園や保育所への広報に力を入れたことで、来場してくれた子どもたちの3分の1を幼児が占め、ま

だベビーカーに乗っているような赤ちゃんも多く遊びに来てくれました。さらに、子どもたちだけでなく、興味を持って訪れた地域の方や高校生、他大学の方々の姿も見られ、様々な年齢の人との交流の場になりました。昨年の反省を活かし、危険な点は改善するようそれぞれのブースで心がけたことで、今年はけがもなく安全に遊ぶことのできる空間を提供することもできました。

5つのブースはどれも人気で、楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿がありました。子ども達は閉場ぎりぎりまで遊び、閉場の時には多くの子どもたちに「また来年も来るね。」と言ってもらうことができました。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この子どもまつりを行ったことで、地域の方々と香川大学の学生が関わる機会ができ、香川大学を知ってもらえる良いきっかけができたと思います。今年の子どものまつりには、子どものみでなく、パンフレットや体育館の様子を見てその活動に興味を持ち、見学に来る地域の方の姿もありました。子どもまつりに訪れた方々も、大学生との交流を良かった点として挙げてくれており、地域の方々に香川大学の学生の姿を知ってもらえたと思います。また、子どもたちも子どもまつりで遊んでいる中で、大学生との関わりだけではなく、他の地域の子供たちと関わる場面も見られ、普段の生活ではなかなか交流することができないような離れた地域の人と関わることもできたと思います。

さらに、子どもまつりに訪れた人の中には他大学の学生の方や高校生の姿もあり、他大学の人と話をしたり、高校生に香川大学の話をしたりしたことで、実際に香川大学で生活している大学生と交流し、香川大学の様々な面を知ってもらえることができたと思います。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この子どもまつりをするにあたって、58名という大人数で一つのものを作り上げていくことは決して容易なことではありませんでした。一人ひとりが思い描いている子どもまつりを一つのものとして作り上げていくためには、話し合いに多くの時間を費さなければなりませんでした。その話し合いでも、意見の違いで衝突することがしばしばありました。また、作業でも大きなものを作るため多くの時間が必要となり、うまく進まない作業に悩むこともありました。しかし、そのような中でも皆が助け合い、自分の仕事が終わった人は他の人の手伝いをする姿が自然と見られました。そのおかげで当日は大きな問題もなく、子どもまつりを成功することができました。子どもまつりを終えると、皆には満足そうな笑顔がありました。この子どもまつりを通して、私たち自身大人数で何かをやり遂げることの大変さを実感したとともに、その中で一個人として自分に何ができるのかを考える力がついたように思います。

また、今回の子どもまつりには私たちサークル員の力だけではなく、多くの人の手助けがありました。子どもまつりがうまくいくように様々な配慮をしてくださった大学職員や大学実行委員の方々、他サークルや他団体の方々には本当に感謝しています。大学の方々だけでなく、地域の方々にもたくさんお世話になりました。子どもまつりの準備を行う上で重要な材料となる段ボールを収集する時に、多くのスーパーや会社が快く段ボールを譲ってくださいました。また、地域の子どもたちへ子どもまつりを宣伝する際には、多くの公民館の方々が協力してくださいました。このように、自分たちがやっていることは多くの人の手助けによって成り立っていることを改めて感じました。

子どもまつりを作り上げていく中で本当に多くのことを感じることができました。多くの人の支えの中に自分たちはいるのだということ、仲間の温かさ、共に一つのものを作り上げることの大変さとそれを作り上げた時の達成感は、決して忘れることのない思い出として私たちの中に残ると思います。そして、今回学んだことはこれから社会に出ていく私たちにとってとても大切なものになると思います。



6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

この子どもまつりは毎年私たちのサークルで行われている行事です。そして、それとともに毎年、反省点や感想などを述べる検証をサークル員全員で行います。その年の反省点を出し、来年に活かすことを目的としています。今年度の子どもまつりでは昨年度出た作業時間の改善を特に考え、早くから体育館の中での作業を行ったことで、サークル員が昨年よりも余裕をもって準備に取り組むことができたと思います。そのような点では昨年の反省を十分に改善できたように思います。しかし、今年はまた新たな反省点ができました。今年の反省で特に多く挙げたものは、限られた材料と予算の中でどのように自分たちが思い描くものを作っていくかということでした。子供まつりでは多くのペンキやガムテープを使用します。しかし使える材料には限りがあるので、時には自分たちが作りたいものをあきらめなければなりません。そのため、もっとこうしたかったという思いが残ることもありました。限られたものの中で、いかに工夫してより自分たちが思い描いているものに近づけ、子どもたちに安全に楽しんでもらうためにはどうすれば良いかというのは本当に難しい問題ではありますが、少しでも改善できるよう、来年度はこの点も含め、全員でしっかりと意見を出し合ってさらに良い子どもまつりになるよう、考えていきたいと思えます。



7. 実施メンバー

代表者	森末 安寿紗	(教育学部 2年)			
構成員	今瀧 美帆	(教育学部 2年)	蔵本 愛里	(教育学部 2年)	
	青野 未緒	(教育学部 3年)	石原 友里子	(教育学部 3年)	
	井上 友輔	(教育学部 3年)	牛島 浩晶	(工学部 3年)	
	岡本 侑記	(教育学部 3年)	桂 雄人	(教育学部 3年)	
	北本 竜樹	(経済学部 3年)	幸山 将大	(教育学部 3年)	
	佐堂 祐一	(教育学部 3年)	水津 幸恵	(教育学部 3年)	
	鈴木 貴也	(教育学部 3年)	竹端 正伸	(教育学部 3年)	
	廣岡 秀美	(教育学部 3年)	藤原 達也	(経済学部 3年)	
	前田 絵美	(教育学部 3年)	正金 健一	(経済学部 3年)	
	松川 知佳	(教育学部 3年)	丸山 祐実	(教育学部 3年)	
	三谷 祐太	(教育学部 3年)	秋庭 弘貴	(教育学部 2年)	
	石川 真	(工学部 2年)	板倉 由依	(教育学部 2年)	
	植松 恵	(教育学部 2年)	加藤 真人	(教育学部 2年)	
	河野 佐知子	(教育学部 2年)	篠原 沙奈恵	(教育学部 2年)	
	須崎 徳馬	(教育学部 2年)	田淵 早由未	(教育学部 2年)	
	田村 あゆみ	(教育学部 2年)	廣澤 佑亮	(工学部 2年)	
	藤本 彩	(教育学部 2年)	山地 愛	(教育学部 2年)	
	横山 実紀	(教育学部 2年)	渡瀬 友花	(教育学部 2年)	
	赤枝 朋子	(教育学部 1年)	赤澤 沙季	(経済学部 1年)	
	秋山 秀嗣	(教育学部 1年)	石井 隆貴	(教育学部 1年)	
	伊田 歩美	(教育学部 1年)	岩中 昭洋	(教育学部 1年)	
	浦田 康宏	(教育学部 1年)	金子 弥生	(経済学部 1年)	
	桑原 将太	(教育学部 1年)	斎藤 翼	(工学部 1年)	
	白髭 聖国	(法学部 1年)	田上 大輔	(教育学部 1年)	
	竹内 順子	(教育学部 1年)	徳橋 亜以子	(経済学部 1年)	
	政田 彩香	(教育学部 1年)	三原 菜月	(教育学部 1年)	
	宮下 大史	(教育学部 1年)	宮花 昂平	(教育学部 1年)	
	矢部 千恵	(教育学部 1年)	山下 さくら	(教育学部 1年)	
	山下 美裕	(教育学部 1年)			

以上 58名